

I. はじめに

本学園は「学校法人神奈川大学将来構想」を実現するため、2018年度に将来構想実行計画(2018-2028)を策定し、重点事業であるみなとみらいキャンパス計画をはじめとするキャンパス新総合計画や、新たな教育組織・教育プログラム等の各計画の財政基盤となる中長期財政計画(2018-2028)を策定し、各計画を進めてきました。

2019年度は、10年先の創立100周年を見据えた「未来創造スタート年」として、みなとみらいキャンパス計画をはじめとするキャンパス新総合計画、国際日本学部(設置構想中)の設置が大きく進展し本格化していく年となります。各計画を推進するとともに、学長のリーダーシップの下、「時代を切り拓く力」を持ったYOKOHAMAの総合大学として、世界を引き付け、未来社会を先導するために、検討を進めている新機軸による教育組織の再編等も具体化させ、創立100周年、そしてその先を見据え、競争力を強化し、魅力ある学園づくりを進めます。

II. 重点事業の概要

2019年度は、将来構想の推進を中心に、次の5点を重点項目とし、その実現に向けた諸施策を実施します。

○ 将来構想実行計画の推進

将来構想実行計画(2018-2028)に基づき、国際日本学部(設置構想中)の設置と魅力的な教育組織の構築、みなとみらいキャンパス計画及びキャンパス新総合計画の推進、「SDGs」への取り組み、財政基盤の強化を重点施策とし、将来構想の実現に向け推進します。

○ 国際日本学部(設置構想中)の設置と魅力的な教育組織の構築

国際日本学部の2020年度開設に向けて設置に係る手続きを着実に進めるとともに、国際化とダイバーシティの推進を基軸に、魅力と実力を兼ね備えた教育組織の(再)構築に取り組み、「海とみなと」を新ブランドとする世界水準の教育研究を全学的に展開します。また、本学のこうした取り組みを広く世界に発信するため、トップマネジメントによる広報を強化します。

○ みなとみらいキャンパス計画とキャンパス新総合計画の推進

本学園の競争力を強化し、神奈川大学ダイバーシティ宣言の下、みなとみらいキャンパス計画では、グローバル系学部による教育、研究を推進するため「国際・日本」が融合した未来「創造・交流」キャンパスをコンセプトとし、世界標準の人材を育成する都市型、未来型キャンパスを目指します。

キャンパス新総合計画では、経営学部と理学部の移転に伴う体育・スポーツ施設及び理学部移転施設の検討、横浜キャンパス図書館改修を進めます。

○ SDGs への取り組み

持続可能なグローバル目標である「SDGs」の達成に向けた教育・研究を推進するとともに、自治体との包括連携協定や大学間連携協定に基づき、地域社会の課題を解決する等、SDGsへの取り組みを強化します。

○ 将来構想を推進するための財政基盤の強化

将来構想実行計画(2018-2028)で掲げた諸施策を実現するため、2018年度に策定した中長期財政計画(2018-2028)に基づき財政基盤の強化を目指します。みなとみらいキャンパス計画及びキャンパス新総合計画、国際日本学部(設置構想中)設置に伴う資金計画を踏まえ、将来にわたり安定的な法人運営を推進します。

1. 大学

2019年度の最重点事業を以下の2点とし、「知の拠点」にふさわしい教育組織や教育研究環境の構築を推進します。そのために、教学ガバナンスを強化し、国際化とダイバーシティの推進を基軸に据え、(1)から(3)に掲げる教育研究体制の整備を進めます。

◎ 国際日本学部(設置構想中)の設置と魅力的な教育組織の構築



国際日本学部の2020年4月開設に向け、設置に係る手続を着実に進めます。また、みなとみらいキャンパスへの国際日本学部・外国語学部・経営学部の3学部移転と横浜キャンパスへの理学部移転の準備を進め、教養教育を中心とした教育実施体制を整備するほか、魅力的な新学部の設立を視野に入れた、理学部・工学部をはじめとする既存の教育組織や教員組織の再編・改革に取り組みます。さらに、社会的要請に応える大学院改革を推進します。

◎ みなとみらいキャンパス計画の推進と教育研究環境の向上



みなとみらいキャンパスの開設に伴う教育組織の移転・集約や体育・スポーツ施設の整備を進め、教育研究環境の向上を目指してキャンパス整備計画を推進します。とくに、教育と研究の交流を促し社会に開かれた知的空間としての図書館の機能強化を図り、「知の拠点」にふさわしい大学づくりを進めます。また、地域社会との協力・連携体制を構築し、研究成果及び知的財産を社会に還元します。さらに、地域社会との連携の拠点となる社会連携センターを設置し、神奈川県や神奈川県中小企業家同友会等との包括協定締結に続き、自治体や企業団体等と協定締結を促進します。

(1) 教育の質の向上と多様な教育の展開

〔予算:3億 2,337万円〕



高大接続の要となる初年次導入教育に力を入れ、教養教育と専門教育との有機的連携に基づく、柔軟で魅力的な教育課程の改革に取り組みます。4月に発足する共通教養教育センターを中心に教養教育への全学的な取り組みを強化するとともに、教育の質の維持・向上を図ります。また、全学の教育全体の(再)構築を進める全学教育機構等の設置を検討します。

学生が自ら主体的・能動的に考え課題に取り組む学際的・国際的なプログラムを拡充し、国内外の学生交換留学をはじめ、ゼミナールや演習、体験型学習等を組み合わせて主体的・対話的で深い学びを促進します。また、学生の課内・課外活動を支援し、良識ある市民の育成と社会性の涵養に力を入れ、多様な人々が交流し人間的な成長を促しあう大学コミュニティの醸成に努めます。その実現のために、ダイバーシティ推進委員会を設置し、啓発活動と情報発信に取り組みます。

さらに、IRによる教育情報等を活用し、学修成果の可視化に向けた取り組みを進めます。

(2) 特色ある研究と教育の推進

〔予算:1億 8,390万円〕



SDGsを実現する教育研究に取り組み、世界水準の高等教育機関にふさわしい教育研究環境の整備を進めるとともに、それらの実現に必要な事業に従事する教育職員や事務職員の配置をはじめ、学長のリーダーシップの下に積極的な教学政策を展開します。

「海とみなと」の地理的・歴史的条件を共有する国内外の大学間ネットワークの構築へ向け、神戸学院大学に続き国内外の大学と協定を締結し、それぞれの大学の個性と多様性を活かした文理融合型の特色ある研究・教育プログラムの開発や単位互換等の多彩な交流を進めます。また、こうした取り組みを大学のブランディングに活かす「海とみなと研究所」の設立準備を進めるとともに、上海交流センターに続く海外活動拠点の設置を検討します。

国内外の学生たちが共同生活を通じて国際感覚を育む新国際学生寮（仮称）の実現に向け、関係諸規程を整備します。また、日本語・日本文化プログラムのほか、外国語による授業科目の拡充や国内外で国際性を身につける多様な教育プログラムの開発、留学生の日本語教育の強化等に取り組み、学生の意欲や能力を高める教育を進めます。さらに、国内外の学生がともに主体的・能動的に取り組み、多様で多彩な文化に触れられる「インターナショナルウィーク」を引き続き開催します。

若手研究者を育成し女性研究者を支援する制度と体制を確立し、国際的な活躍を応援します。また、大学院生や学生の教育研究支援を目的とする海外の優れた研究者の招へい制度等を整備するとともに、本学の世界水準の学術研究を広く世界に発信するため、英語版広報誌「PROUD BLUE」を活用する等、教学の広報を強化します。

(3) キャリア形成と学生支援の強化

〔予算:8億2,796万円〕



学生の成長を支援する体制を一層強化し、就職支援の強化とキャリア教育の改革を進めます。また、宮陵会をはじめとする卒業生との連携を強化し、U・Iターンをはじめ、学生一人ひとりの資質や能力、希望に応じた就職支援等に取り組みます。さらに、地域社会と連携したキャリア教育やインターンシップ等の実施に取り組みます。

給費生制度や予約型奨学金制度のほか、各種奨学金等の充実に向けた検討を進めます。また、障がい等を理由とする差別や不利益が生まれないように教育環境を整備し、様々な配慮を求める学生の要望に的確に対応するサポート体制を確立して多様な学生を支援するよう努めます。さらに、学生の課外活動の支援を一層強化します。

2. 附属学校

近年、附属学校を取り巻く環境は、私立学校に加え、公立の中高一貫校等、他校との競争が激化しており、こうした中、新学習指導要領、高大接続改革、グローバル教育、ICT教育の進展、教育環境の整備等への取り組みは重要な要素となっています。このようなことから、2019年度は、(1)から(3)に掲げる教育内容の充実に取り組みます。

◎ 常に学び続け、社会的に評価される教育の実践



「真剣な学習をしよう・健康な心と身体をつくろう・信愛の心をもとう」の校訓の下、授業、スポーツ、芸術等様々な文化的活動を通して6年間を過ごし、たくましく現在を生きる人を育てます。バランスのとれた学習で第一希望の進路が叶うようにカリキュラムを設計し、社会に要請される人を輩出します。

◎ 地域で一番の中高一貫共学校



男女共修の立場で、カリキュラム上、男女の差をつけず共に学び合い教え合う学習環境から、自由と個性と多様性を尊重し、他者を理解し配慮する心を持ち、自らの成長を促し自立する人を育成します。

(1)「主体的に考え、判断し、行動できる人」の育成 【予算:3,244万円】



自律的な学びからたくましく現代を生きる生徒を育成することに重点を置き、各種コンクール等外部の様々な活動に主体的に参加できるよう情報提供に努めるとともに、このような活動や経験を通じて生徒自身が将来のキャリアを考えることができるよう、進路教育へとつなぎます。

2019年度は中学2年生から高校1年生に対しタブレットPCの活用による教育を実施し、ICT教育をさらに充実します。

研究室の訪問、大学教員による授業等の大学体験、宇宙エレベーターロボット事業をはじめとした神奈川大学との高大連携を強化し、より高度な教育の実現を目指します。

グローバル教育の充実については、English Loungeの活用や、中学1年生から3年生までを対象とする英語合宿(BEC)を実施するほか、海外研修による課題解決型学習に「理科グランドキャニオンコース」を新設し、豊かな教養を育む教育を推進します。また、教員の質を高めるために、国内、海外の大学や教育機関の視察研修や校内での研修、セミナーを実施し、より先進的な教育への取り組みを進めます。

(2)確かな学力に基づく進路指導の充実



生徒の希望に沿う進路選択、また進学先を確保していくため、2020年度からの大学入試制度改革、英語外部検定試験への対応を念頭に、教科指導方法の向上と合わせて、GTEC(スコア型英語4技能検定)を採用し、e-learning(College Pathway)による英語学習の充実を図っています。

このe-learningシステムの採用に伴い、高い英語のスキルとバランスのとれた全教科の成績が認められた生徒を対象に海外協定大学推薦制度(UPAA)を導入し、希望する生徒へ海外大学への進学を支援します。

(3)創造性と豊かな人間性の涵養



豊かな人間性を涵養する場として学級活動、生徒会活動、部活動への取り組みを充実させるとともに、地域と連携したボランティア活動、いのちや思いやりをテーマに、福祉体験授業や医療現場でのドクターやナース体験学習を実施します。また、生徒の個性や創造性を伸ばさせるため、「体育大会」「くすのき祭」「海外研修」等既存の学校行事を精選し、質を高めます。

高い次元の学びへとつながる創造性豊かな教育を施すため、本校独自の新カリキュラムを設計し、常に学び続ける学校環境の整備を目指します。

この学びを支えるため、個性、多様性を重視し、他者の様々な考えを理解する思いやりの心とやさしさの精神を兼ね備えた自立する生徒の育成に努めます。

3. 基盤整備

◎ 将来構想を推進するための経営基盤の強化



学校法人神奈川大学将来構想を実現するため、将来構想実行計画（2018-2028）に基づき、2028年の創立100周年に向け、みなとみらいキャンパス開設にあたり、ソーシャルコモンズ機能の検討やキャンパス新総合計画の実現に向けた検討を進め、競争力を強化し、魅力ある学園を構築します。将来構想を実現するため、中長期財政計画（2018-2028）に基づき、創立100周年以降もさらに発展するための安定的な経営基盤を強化します。

(1) 財政基盤の強化

ア 中長期財政計画の推進



みなとみらいキャンパス計画及びキャンパス新総合計画による施設整備計画、国際日本学部（設置構想中）の設置、新機軸による教育組織の再編等の各計画を踏まえ、キャンパス新総合計画施設整備事業引当特定資産の積み立て、2020年度からの学費改定等、中長期財政計画（2018-2028）で掲げた目標を推進し、安定的な財政基盤を目指します。

イ 募金事業の強化



みなとみらいキャンパス開設のための経費及び環境整備を目的とした「みなとみらいキャンパス開設整備募金」、新国際学生寮（仮称）建設資金及び国際化を実現するための行動計画に基づき、グローバル教育・研究を推進することを目的とした「グローバル教育・研究推進募金」、スポーツ施設整備、スポーツ奨学金、及び指導者の確保や国際大会等で活躍する選手育成強化を目的とした「スポーツアスリート育成募金」の3つからなる創立100周年記念募金については、ホームページに専用サイトを開設し、様々なステークホルダーに募集活動を行い、他の募金と合わせ寄付金収入の拡大を目指します。

ウ 事業会社の活用



2017年8月に設立した（株）KUパートナーズに、施設総合管理業務、図書館管理業務等の業務を委託しており、2019年度も事業会社を活用することにより、法人全体の業務の効率化を図ります。

(2) 魅力あるキャンパスの構築

ア みなとみらいキャンパス計画の推進



みなとみらいキャンパスの2021年度開設に向け、SDGsや環境へ配慮した建設工事を進めるとともに、ソーシャルコモンズ機能の中心となる低層部の検討を進めます。併せて、キャンパス全体のデザイン計画等を進めます。また、国際日本学部（設置構想中）や外国語学部、経営学部の移転等に伴う開設準備を進め、具体的な運営計画の検討を進めます。

イ キャンパス新総合計画の推進



横浜キャンパスについては、図書館の改修計画を進め、2020年からの工事着工に向け、施工業

者を選定し、工事内容の検討を進めます。また、外国人留学生と日本人学生が共同生活を送る新国際学生寮（仮称）が竣工します。中山キャンパスについては、400mトラックを含めたグラウンド改修工事を進め、2019年度内の完成を目指します。

経営学部と理学部の移転に伴う体育・スポーツ施設及び理学部移転施設については検討を進め、魅力あるキャンパス計画を策定します。

また、経営学部、理学部移転後の、湘南ひらつかキャンパスの利活用については、様々な角度から調査、研究を始めます。

(3) 将来構想を実現する組織及び人事制度の強化

ア 大学教員組織・人事制度

新たな学部構想や各学部の改革・改組等を見据えた教育組織と教員組織の再編・改革に取り組み、教員組織のいっそうの充実を図ります。また、特色ある教育研究の展開や組織改編に合わせて、センター等の全学機関に所属する新たな教員任用制度を導入し、全学組織の再編・改革を進めます。



イ 附属学校教員組織・人事制度

本校全体の学び方改革として、教育の質の向上と、ICT、グローバル、STEM等の先進的な教育を推進していきます。併せて、教員の働き方改革として業務整理と業務改善、人的支援、システム構築等、委員会を設置し、総合的に検討を重ね、今後も改革を推進します。



ウ 事務職員組織・人事制度

これからの社会構造の変化を見据え、将来構想実行計画（2018-2028）、学長のリーダーシップの下で進めている新機軸による教育組織の再編等の教学改革、教職協働や働き方改革等を推進、実現させるため、事務組織改編を進めます。

なお、2019年度は、みなとみらいキャンパスの開設に向け、開設準備のための体制を整備し、ソーシャルcommonsをはじめとした各機能の運営について具体的な検討を行います。

また、国際化やダイバーシティ等を推進していくための職員の育成を目的とした研修等の充実を図ります。



(4) 情報環境の整備

〔予算:8億8,560万円〕

みなとみらいキャンパスの情報環境整備のための基本方針及びキャンパス新総合計画に基づき、みなとみらいキャンパス開設と理学部の横浜キャンパス移転を視野に入れ、情報環境の整備計画を進めます。また、コンピュータ演習室のシステム及び機器の更新、並びに情報管理の一元化を目的とした新教学系基幹システムの導入を行います。



(5) 戦略的広報活動の推進

〔予算:1億9,696万円〕

2020年4月の国際日本学部（設置構想中）開設、2021年のみなとみらいキャンパス開設とグローバル系学部の集約、既存学部のカリキュラム改革等の大学のダイナミックな動きを積極的に社会に発信するために、広報戦略を強化し、ブランド力の向上に向け、推進します。

学生募集広報については、本学伝統の給費生試験を軸に、国際日本学部（設置構想中）・みなと



みらいキャンパスを中心に据え、本学の教育研究の魅力を広く周知していきます。

(6) スポーツ戦略の強化

〔予算:2億8,262万円〕



陸上競技部を中心に、運営体制、練習環境、広報戦略等、重点強化部の全体に関わる強化計画を策定し、「KUブランド」の更なる向上を目指し、推進します。

(7) 社会、地域及び校友等との連携

〔予算:2億6,891万円〕

ア 社会連携センターの開設と推進



地域社会全般からの連携・協力要請に幅広く柔軟・迅速に対応し、SDGsを推進するために、2020年度に開設を予定している社会連携センターの設置に向け、2019年度は教学組織と連携して地域社会貢献活動を積極的に推進します。

イ 地元自治体・企業等との連携



みなとみらいキャンパス開設に向け、地元横浜市、神奈川県に根差した多種多様な連携事業を実施していくとともに、地元企業との連携も積極的に推進し、SDGsの推進や人生100歳時代等、社会情勢の変化に機敏に対応していきます。また、地域町内会自治会、商店街等の身近な組織との共同イベントを通じ、コミュニケーションを深め、よりよい地域社会環境づくりを目指します。

湘南ひらつかキャンパスでは、平塚市との「平塚市・神奈川大学交流事業推進協議会」における諸活動、また大磯町及び二宮町との包括協定の下での一日大学生等の活動を通じ、近隣自治体との連携を継続します。また、「湘南ひらつか七夕まつり」等での本学学生と地元企業との連携も支援します。

ウ 生涯学習の推進



横浜・湘南ひらつかキャンパス、みなとみらいエクステンションセンターにおいて、社会の要請に適った講座・講演会等を年間を通じて開催し、社会、地域の生涯学習を推進します。

エ 高校生等向けイベントの実施



「神奈川大学全国高校生俳句大賞」、「神奈川大学全国高校生理科・科学論文大賞」、「SCIENCE LABORATORY」、「高校生向け公開講座」等を引き続き企画・実施します。

オ 校友との連携



2019年3月の横浜キャンパス30号館（宮陵会館）の竣工を機に、在校生、卒業生、在校生保護者、退職教職員等多くの校友同士の交流を促進し、広く社会、地域及び校友の連携が深まるよう、支援策の更なる充実を図ります。また、卒業生とのネットワークを強化するため、卒業生調査を継続して行うとともに、ホームページ「卒業生ひろば」やホームカミングデー等の機会を通じて、校友との連携を推進します。

カ 高大連携の強化



今後の18歳人口の減少を見据え、本学の強みを活かし、更なる高大接続の充実を図るため、高校の系列化等も含めた検討を進めます。

各項目に付した記号については、国際連合により定められた持続可能な開発目標 (SDGs) の 17 のゴールとなります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための 17 の目標



〔学校法人神奈川大学将来構想〕

策定した将来構想の「学園の理念」、「学園の基本方針」、「経営の方針」は次のとおりです。

学園の理念

○建学の精神 「質実剛健・積極進取・中正堅実」

○使命（ミッション）

「私たちは、建学の精神のもと、時代と社会の課題や使命を地球的視野から深く自覚すると共に、真理を希求する姿勢を持ち続け、自律の精神と共生の視点から主体的に新たな価値を創造する人材を育成し、未来社会の発展と安定に寄与します。」

○100周年に向けた将来像（ビジョン）

「海により開かれ、世界との接点となった横浜に生まれた本学園は、多様な価値観の共存する時代に、人の交流と文化の融和、知識と実践の循環、教育と研究の融合による 21 世紀における「真の実学」を実現し、地域社会そして地球規模の課題を解決する、世界を惹きつけ、世界に発信する学園を目指します。」

学園の基本方針

- | | |
|------------|---------------------------------------|
| <教育方針> | 幅広い教養と人間形成を基礎にした「真の実学」を追求します。 |
| <人材輩出方針> | 自ら成長し、他者と協力しながら社会で生き生きと活躍できる人材を育成します。 |
| <入学生受入方針> | 学園の理念に共感し、学び、成長する意欲の高い人材を受け入れます。 |
| <研究活動方針> | 未来社会の発展と安定に貢献する研究を推進し、研究成果を教育に活かします。 |
| <社会貢献活動方針> | 学園の資源を活用し、地域・日本・世界に貢献します。 |

経営の方針

建学の精神、使命（ミッション）に基づき将来像（ビジョン）を実現します。

- ・ 社会の変化に対応し、総合性を生かした学園資源の選択と集中を行います。
- ・ 教学の主体性を尊重し、法人のガバナンスを強化します。
- ・ 組織の強化を目指すマネジメントを推進します。
- ・ 財源の多元化を推進し、将来に向け安定的な経営基盤を確立します。